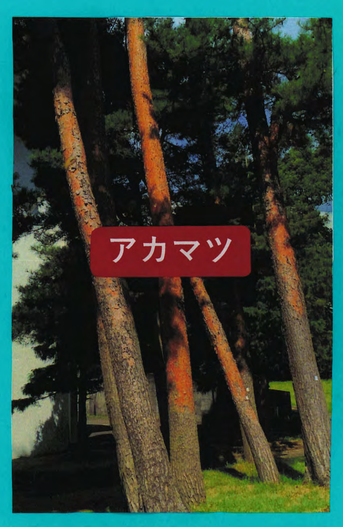
アカマツとクロマツの分布マップ

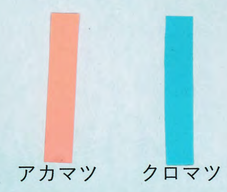
in TOKAI, IBARAKI



【動機】「昔、東海村にはアカマツ林があって季節になると松茸取りに行く人がたくさんいたんだよ」と祖母から聞いた。よく利用する国道245号線沿いのマツを見てみたが、幹の色が赤みを帯びているアカマツと黒白色をしたクロマツがあり、それぞれどんな場所に生えているのか疑問を持った。

【目的】東海村のアカマツとクロマツの自然分布を調査することで、アカマツとクロマツの住みわけがあるのか調べることとした。

【調査方法】文献調査と地形図で針葉樹林を示している場所に出向き、マツの存在を調査し、マツの樹皮の色、葉の性状を基準に外観的にアカマツとクロマツを判別した。



クロマツ樹林 地点A

マツ林の土壌

マツの立ち枯れ 地点E

クロマツ林の再生プロジェクト 地点F

【調査結果】

1. 海岸線長さ約3 km、幅約600 mの範囲でマツ林が広がっていたが、沿岸部以外でのまとまったマツ林は確認できなかった。
2. 内陸部の針葉樹林を示す場所での木の種類はほとんどはスギ・ヒノキであり、マツは一部の雑木林に混じって生えていた。
3. アカマツは内陸部の雑木林中、クロマツは沿岸域に多く見られ、特に海岸線から約200 mの間にクロマツ林があった。海岸線から約200～600 mの間はクロマツよりアカマツが多く生えていた。
4. クロマツが多く生えていた土壌は砂質で、アカマツが多く生えていた土壌は有機物が多い砂質だった。
5. 一般の人が立ち入ることができない場所のクロマツ林ではマツ枯れが酷く殺風景になっていた。
6. 村ではクロマツを保護するために「クロマツ林リジェネプロジェクト」を行っており、クロマツの苗木を植林していた。
7. 多くの住宅地の庭でマツが植えられ、特にクロマツが多かった。

【考察】

1. クロマツとアカマツに住みわけが見られ、クロマツはアカマツとの競争力に弱いが、砂地や潮風といったとても厳しい自然環境に強い性質を持っていると考えられる。
2. 森林環境の保護が地球温暖化対策や国土保全のために叫ばれているが、住宅地化が進み、本来ならあったマツ林などが破壊されている。そのため残されたマツ林などを保全していくことが大切と考える。

【参考文献】

いばらきデジタルマップ　森林計画図
・東海村農業政策課　提供資料（未来と歴史の交流館）